

「芸術の秋」を締めくくる「第二十一回南国市展」が、十一月十五日から二十三日までの九日間、市民体育館で開かれ、大勢の人々にぎわいました。

今年は、昨年より全体で十六点出品数が少なかったものの、各部門に力作がそろい、特選九点、褒状十六点、奨励賞九点、入選一九二点となり、日ごろのみなさんの努力がうかがえました。

また、幼児・児童・生徒の部では、一四、二七五点の出品作品の中から、特選二七一点入選一六一五点が選ばれ、市展会場のふん囲気をいっそう盛り上げていました。

芸術の秋を満喫

第21回 南国市展



洋画 吉川秀子『人物』



洋画 竹中美枝『テーブル上I』

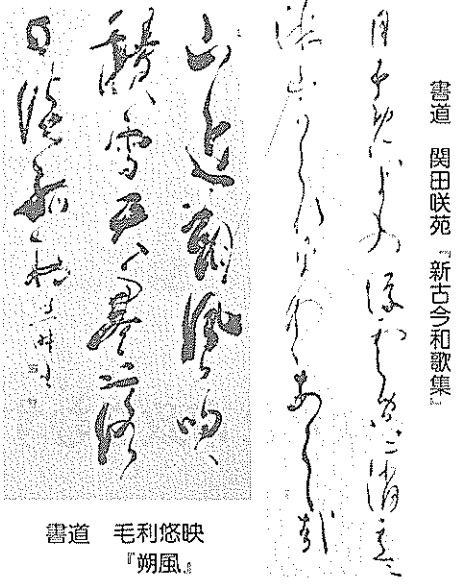
風景 島村義一(片山)『廃れた石灰工場』池知隆(大地)『夕暮れ時の自画像』田島博巳(大地)『朝の港』橋詰正利(植田)『城の見える風景』

【評】：筒井広道(審査員) 出品点数も定着し、応募者の年齢も老若入り交じって、それぞれ意欲が画面にみられる作品が多かった。

賞の数に制限があり、受賞できなかった作品の中にも良いものが数点あった。

受賞作は、それぞれ自分の描きたいこと、伝えたいことを形と色の処理の中で、よく努力していることがわかる。

表面的な描写に終わらないで、造形感覚を大切にして、表現の手法を工夫し、さらに制作を続けたい。



書道 関田咲苑『新古今和歌集』

書道 毛利悠映『朔風』

◆書道◆

【特選】 毛利悠映(大地)『朔風』関田咲苑(後免町)『新古今和歌集』

【褒状】 坂本大龍(高知市)『慈恩の塔に題す』橋田影月(東崎)『秋風』

【奨励賞】 山岡善隆(里改田)『清遠良倪真賢臨』

【無鑑査】 弘末映翠(里改田)『新古今和歌集』川内悠漢(大地)『撫』

【評】：松岡雲峰(審査員) 県展作家も多い土地がだけに内容がなかなか充実し、見ごたえのある作品が多い。

さらに一層の古典研究に精進し一家の書を確立してほしい。

◆デザイン◆

【褒状】 田村高信(下野田)『イメージ1980』

【奨励賞】 東工業電子科一A共同制作(藤原)『イラストレーション』

【評】：仲隆三(審査員) 昨年に比べ出品数は減少したが、全般的に作品の質は向上したといえよう。ただし、特選にあたいする作品は見当らなかった。

落選した作品の中には、昨年同様、一般によく見られるアニメーションの模写と思われるものがあり、特に創造性、イメージ、アイデアを大切にすることを、この部門では注意してもらいたい。

また、学生の作品とともに、一般の方々の出品を多く望みたい。

◆日本画◆

【特選】 大谷美恵(大地)『椿』

【褒状】 武市小芳(東崎)『ハイビスカス』

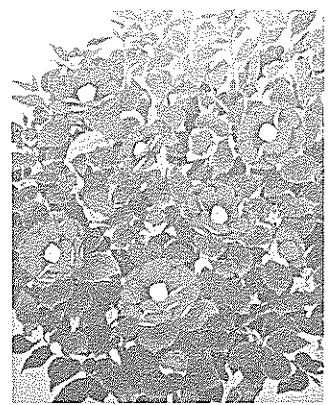
【奨励賞】 野口須磨子(下野田)『ふるさと』

【無鑑査】 伊尾木正太郎(東崎)『錦秋』橋詰正利(植田)『三宝山春景』

【評】：門合南嶺(審査員) 日本画の素材には、いろいろ複雑なことが多い。絵具ひとつひとつにもめんどろな工程があるが、それも素晴らしい良くなってきている。

描写の上にも、基礎となる写生が十分にできている作品には、何かうつつてくるものがある。

自然の中に投入して、そこから得るものが作者の血となり肉となる。



日本画 大谷美恵『椿』

◆漫画◆

【特選】 岩本タケオ(金地)『行政改革はこの手で』

【奨励賞】 葛目義人(笠ノ川)『コンピュータシステム』

【無鑑査】 沢本英世(里改田)『行革国会』教育ママ(ゴン)『脱出』

【評】：平山昌幸(審査員) 出品点数は、昨年の倍以上に増加したが、劇画、アニメーション等の転写されたものがあり、漫画には無くてはならぬ風刺、アイデアの欠けている作品のあったのは残念であった。

その点、ベテラン、常連の作品の中には「なるほど」とうなずけるものがあり、政治、社会、教育等あらゆる面での一層の研究、勉強を積むと共に、漫画の原点を今一度見直す必要を感じた。



漫画 岩本タケオ『行政改革はこの手で』

◆彫塑工芸◆

【褒状】 池本サヨ子(篠原)『白百合』鈴木留喜(里改田)『蓮と花台』森秀子(大地)『櫻』北村美都子(大地)『タンクス』

【奨励賞】 北村博子(十市)『鶴』林千恵(田村)『貼花文飾皿』池田一雄(日枝)『旧型トラクター』

【評】：井戸碩夫(審査員) 今年彫塑作品は出品がなく、立体作品が一点と、他は工芸の作品で、陶芸、木彫など、やや変化に富んだ分野の作品があった。

ただ、全体として平均的にレベルがアップしており、落選という作品はなかった。その代り、特選に匹敵する作品もなく、残念であった。

しかし、特選こそなかった代りに、他の賞の数を増やした。来年に期待したい。

◆写真◆

【特選】 田島一美(小笠)『雪の朝』西内儀克(下野田)『牛と鷄』木戸誠吉(明見)『冬の漁港』

【褒状】 浜田司誠(前浜)『乱舞』田島晴夫(小笠)『小さな戦い』杉本承一(立山)『新瀬 藤田威佳志(大埔)』

【奨励賞】 松本宣博(浜改田)『祭りの巡査さん』

【無鑑査】 竹内律二(里改田)『室戸岬』水田貴士(岡豊町小笠)『幸福な日』原孝士(土佐山田町)『成人の日』土居正道(立山)『秋稼の頃』

【評】：大野敦英、高芝晴喜

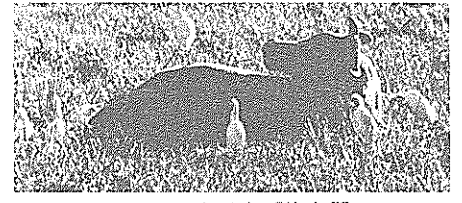


写真 西内儀克『牛と鷄』



写真 田島一美『雪の朝』



写真 木戸誠吉『冬の漁港』

今年出品作品数は、昨年よりやや減少しているが、全体のレベルとしては県下の地方展と変わりないと思えます。

特に目についたことは、出品者個々の写真的感覚、あるいは表現技術の差があまりにもかけ離れていることでしょう。

グループのリーダー、地区の写友のリーダーの力添えを望みます。